

WEEKLY SIGNAL

2020年2月14日(金) 1512号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/17(月)	2/18(火)	2/19(水)	2/20(木)	2/21(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	トシ	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	+ 300	+ 1,000	△ 22,000	△ 4,000	△ 7,000
資金需給	+ 800	+ 1,000	△ 23,000	△ 6,000	△ 9,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(個人向け) 国債償還(2年)		国債発行(5年)	国庫短期証券発行・償還(1Y)	国債発行(20年)
オペ期日	CP買入 △ 200 国債補充供給 + 100				
オペスタート	ETF買入 + 700				
(日本)	GDP(季調済/前期比)(4Q) GDPデフレーター(前年比)(4Q) 鉱工業生産(前年比)(12月)		貿易収支(1月)	月例経済報告(2月)	全国CPI(前年比)(1月)
(海外)	米 祝日(アレキサンダー)	米 ニューヨーク連銀製造業景況指数(2月) 英 ILO失業率	米 FOMC議事要旨(1/28、29開催分) 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 グラフマン連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 ダラス連銀総裁、講演 米 リッチモンド連銀総裁、講演 米 PPI(1月) 英 CPI(1月)	米 新規失業保険申請件数 (2/15終了週) 米 景気先行指標総合指数(1月) 米 リッチモンド連銀総裁、講演 欧 ECB議事要旨 欧 EU臨時首脳会議 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(2月)	米 ダラス連銀総裁、講演 米 グラフマン連銀総裁、講演 米 フレイドFRB理事と アトランタ連銀総裁、パネル討論会に参加 米 クラリダFRB副議長、 パネル討論会に参加 欧 ユーロ圏総合PMI(2月) 欧 ユーロ圏CPI(1月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初390兆8,000億円から始まった。今週は10日、12日、14日の国債買入オペ、13日の国庫短期証券買入オペ、14日の年金定時払いと増加要因が多く、週末の同残高は週初に比べ約9兆円増加し、399兆8,800億円で越えた。
今週の無担保コールON物は、地銀業態を中心に日銀当座預金残高の調整を目的とした調達ニーズが強く、週を通して加重平均金利が△0.011%以上で推移する堅調な地合いとなった。特に12日・13日の同加重平均金利は△0.008%となり、2019年12月以来約2か月ぶりの高さとなった。
ターム物は1W～1M物で、△0.010%程度の水準で出合いが見られた。
財務省が10日発表した2019年の国際収支統計(速報)によると、経常収支の黒字は前年比4.4%増の20兆597億円となり、黒字が2年ぶりに増加した。統計が遡れる1996年以降でサービス収支が初めて黒字となった。
来週の主な予定は、国内では2019年10-12月期の国内総生産(GDP)速報値(17日)の発表や、1月の全国消費者物価指数(CPI)の発表(21日)などがあり、海外では米FOMC議事要旨(1月28日、29日開催分)の公表(19日)や、G20財務相・中央銀行総裁会議(サウジアラビア・リヤド)(22日、23日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約6,900億円で、週間償還額(約5,400億円)を上回った。発行は、期日償還案件も見られたものの、週後半に電気機器や小売業の大型案件が重なり、やや活況となった。発行残高は、先週末の22兆5,067億円から13日時点では22兆2,600億円弱となった模様。発行レートは、概ね0%近辺の出合いであったが、発行額の大きい銘柄はやや強含みとなった。
来週の発行市場は、週間償還額の約7,700億円に対し5・10日発行が予定されるため、発行超が予想される。今週同様、3月期末を見据えて期内物中心の発行が多いと思われる。発行レートは、市場残高が22兆円台前半の高水準で推移していることもあり、0%近辺からやや強含みの動きを予想する。一方、発行の少ない期越え物については、ゼロ割れでの出合いと思われる。18日に、CP等買入れオペが3,500億円程度オファーされる予定。

＜TDB＞

14日の同3M888回債(5月18日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1222%(前回債△0.1323%)、平均落札利回り△0.1283%(同△0.1367%)となり、入札後は△0.123%～△0.120%のレンジで出合いが見られた。そのほかセカンダリーでは3M887回債(5月11日償還)が△0.143%で出合いが見られた。また6M886回債(8月11日償還)は週初△0.160%で取引され、13日には△0.156%まで売り向かう動きが見られた。来週は19日に1Y物、21日に3M物の入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GC取引は週初△0.05%近辺から始まった。短国オペが実施された13日受渡しでは△0.09%～△0.07%で多く取引され、積み最終日となる14日受渡しは△0.11%～△0.10%の取引が中心となった。新積み期に入る17日受渡しは、短国3Mの発行もあり△0.08%～△0.07%まで上昇した。
SC取引のうち20年171回債は週初△0.1%台前半、週央から週末にかけては△0.3%台での出合いも見られた。その他2年405～409回債、5年136～142回債、10年334～357回債、20年166～170回債、30年62～65回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。